

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	廃棄物政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 3 6 (直通)		
開催日時	令和 8 年 1 月 1 9 日 (月) 1 0 時 0 0 分 ~ 1 2 時 0 0 分		
開催場所	相模原市役所 第 2 別館 3 階 第 3 委員会室		
出席者	委員	1 6 人 (別紙のとおり)	
	その他	0 人	
	事務局	1 9 人 (環境部長、廃棄物政策課長、他 1 7 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	1 開会  2 部長あいさつ  3 議題 (1) さらなる 4 R の推進について (2) ごみ減量に係る効果的な啓発について (3) 次回に審議する取組について ①家庭ごみの有料化について ②家庭ごみの戸別収集について		

## 議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

### 1 開会

定足数を確認の上、開会した。

### 2 部長あいさつ

環境部長よりあいさつを行った。

### 3 議題

#### (1) さらなる4Rの推進について

資料1を元に事務局より説明を行った後、さらなる4Rの推進に向け、新しく取り組むべきこと、強化するべきこと、変えていくべきことについて議論を実施した。

#### <質疑事項>

(林田委員) さらなる4Rの推進というテーマについて、参考資料Iで10ページを見たときに、リサイクルという言葉は、おそらく社会に定着しているので認知度が最も高く、最も低いのがリフューズということが数字に表れている。それぞれの年代別の認知度の表が右側11ページに記載されているが、リフューズについて力を入れていくことが必要だと改めて思う。

また、リフューズに関係するところで、同じく参考資料Iの8ページのグラフを見ると、例えば1番目の項目「マイバッグを持参している(レジ袋をもらわない)」については全体の取組率として86.9%はあるのだが、3番目の項目「買い物時に割りばし等はもらわない」については56.3%まで下がる。

マイバックという言葉は、すでに社会に定着していて認知されており行動にもつながる。しかし、リフューズに関する「店頭でいりません」という行動が、まだ概念化されていない気がする。したがって、マイバックに相当するような言葉を作って社会に定着させていくと、自然と行動に繋がるのではないかと思っている。社会の中にそういう概念を言葉で作っていくということが大事なのではないかと思った。

(大木会長) リフューズという言葉はなかなか理解しにくい言葉だと思う。

(浅賀委員) リフューズなどの言葉は若い人は理解ができるかもしれないが、高齢者になると難しい概念になってしまうので、日本語で例えられるような

言葉があってもよいと思う。要は、リフューズは買い物袋や箸を断る発生抑制ということになると、色々なものを買わないことが一番になってくると捉えられる。つまり購入をすると生ごみを含めたごみやその包装が発出してしまうので、必要なものを買わないという考え方になる。

今は物価高で必要ではないものはなかなか買えないので、そういう意味で、経済的な抑制力が高まってあまり物を買っていないことがある。それはとても残念なことだが、企業側としてはやはり買って欲しいし、そうしないと経済が回らない。不要なものを買わないという考え方はもちろんあるが、色々な嗜好も大事で、買った後にごみにさせないような生ごみの処理やなるべく包装を簡略化してリサイクルできるように企業側にも生産していただかないと、個人のレベルである程度の削減はできても、それ以上は進まないのではないかと認識している。

リフューズやリデュースもよいが、日本語の命名も含めて、もっと抑制とはどういうことなのか、それぞれ個人の生活にとって、どのような位置付けになるのかということ、皆に考えていただけるようなメッセージを送っていく必要があるのではないかと思った。

**(事務局)** 先ほど他市の状況等も参考資料Iで説明させていただいたが、何かこういったことを知りたいということがあれば個別に教えていただきたい。

前回欠席された委員の方もいるので、もう一度諮問について説明をさせていただくが、『最終処分場に頼らない持続可能な未来を目指すためのごみの減量化及び資源化に関する取組について』ということで、市長から審議会へ諮問させていただいた。そして、諮問事項として、資料にある6つの項目を取り上げており、これについて皆様から答申をいただきたい。また、諮問の目的として、『未来に向けたごみの減量化や資源化のための取組の基本方針』を答申をいただいた後に策定をしたいと考えている。

それを受けて一般廃棄物処理基本計画を策定していくことになるが、答申は基本計画を作っていくための基本方針の骨の部分になるため、皆様に議論をしていただいている。

**(畑野委員)** リフューズ、リデュースという横文字が定着していないと高齢者に見受けられる数字となっているが、参考資料Iの前に遡って問1ごみ削減に向けた行動についての年齢別の取組結果を見ると、実は高齢者は言葉を知らなくても取り組んでいることがよく分かる。反対に、言葉を知っていても若い世代、中間層は取組率が他の年代より低いということもよ

く分かる。したがって新しく取り組むためのキャッチフレーズなども必要なかもしれないが、世代ごとに対策を試してみるのがよいのではないか。

実際ごみはどのぐらい出しているのだろうと数字で考えると、1人1日大体ペットボトル1本分を出しているということが分かる。相模原市は住民票を置いてない大学生などが多くいるので、そのようなところにしっかりと啓発をしていけばよいのではないかと思う。

これから3月と4月は引っ越しなどでごみが多く出る。私も引っ越しの際にたくさんのごみを出していた。また、何か新しいものを買ったりすることもあるので、そういうところに着目をして、例えば啓発ポスターを1枚作るなど様々な対策をしていけば、横文字に頼らずともよいのではないかとこの数字を見て思う。大学生になった時などにパソコンを買うと段ボールで包装をされてくるが、ごみになるということを踏まえて対策をやってみるとよい。

もう1点は、シゲンジャーが認知されているので、これを活用してごみ削減に向けた取組ができていない若者に対して、リフューズとリデュースを推進することが一番最初にできることではないかと思う。

**(伊藤委員)** 今、畑野委員が仰ったように、引っ越しの際にごみが多く出ることを実感している。色々と考えたが、大きなごみはほとんどが梱包材である。今の引っ越し業者は結構持って行ってくれるが、それでも大量に出る。リフューズについて、今の私たちの購買傾向は、実店舗に行って買うより通販業者を利用することが多い。その場合、購入者側には送られてきた商品の梱包を断る選択肢はない。つまり、市民が通販に関してできることはない。

例えば、通販業者が簡易包装や丁寧な包装を断るなど色々な選択肢があるとしたらよいが、今のところ商品を買うだけなので、販売者側は壊れないように購入者へ届けることが大前提となり過剰な包装になっている。結果、発泡スチロールや段ボールがたくさんごみとして出てきてしまうのが現状である。それでは電気屋に行けばよいのかもしれないが、電化製品を買うと結局包装を過剰にしないと安全に手元に届かない。

今、若い人たちは実店舗に行って商品を買うよりもスマホで買うことをしている。送られてくる物は大体過剰包装でごみがそれだけ出ている。そこは市民側ではなくて、販売者側にもそういう方法やそれ以外の対応もあるというのを認識させたほうがよいと考えた。

**(中島委員)** 啓発的な話も出ているが、収集品目についての話もさせていただきた

い。今年10月からはミックスペーパーと製品プラスチックの回収が始まり、ごみの減量化・資源化の進展が期待される。さらにどのような品目が必要かと考えた時に、以前から言っているが、剪定枝の資源としての回収を検討してほしい。自宅近くのごみ集積場所でも相当出ているので、ぜひ具体化していただきたい。私が所有している賃貸物件でも毎年かなり剪定枝が出ているが、資源として堆肥化できる業者に処分をお願いしている。町田市は資源として剪定枝を回収していると聞いているので、相模原市でも資源化できる業者を見つけて進めてほしい。

もう一つ、排出されるごみの内訳を見ると、生ごみの比率が非常に高いので、ここを何とかしないといけない。生ごみ処理器で堆肥化するなどの取組も実施されているが進展していないため、市民が簡単にできることを考えていく必要がある。ただ啓発するだけではなかなか効果が出てこないと思うので、先ほど紹介のあった広島市の取組も参考にしながら、何か具体的な方策を考えてほしい。

(大河内委員) 質問と意見を言わせていただく。まず質問だが、令和8年10月からミックスペーパーを回収の対象にされるとのことだが、そのリサイクル方法はどのようなものを考えているのか。もう一点、他政令市のごみ排出量の少ないところと組成の比較をしているが、相模原市の場合、「資源化できないごみ袋、レジ袋等」のところを敢えて切り出して2.7%と記載している。どこの市町村もごみ袋を使ってごみを出すのは一緒だと思うが、他市町村がごみ有料化などで指定袋を使っているのではこの数値が出ていなくて相模原市だけ出しているのか、その辺りを教えていただきたい。

次に意見になるが、新たな品目の資源化ということで資料1の排出内訳を見ていると、その他の紙の中に「紙おむつ・生理用品」があるが、神奈川県内も町田市も近隣自治体も検討をしているが実現していない状況なのかと推察している。紙おむつは高齢化の進行に伴って今後も排出量が増えていくと予想されている品目で、現段階で多いのにも関わらずこれからさらに増えていく可能性があるため、一般家庭レベルでいきなり資源化を進めるとするのは難しいと思うが、事業者からの回収システムをぜひご検討いただきたい。色々な市町村で検討しているが、単独市町村ではなかなか難しいという結論が共通して出ているようだ。例えば、小田原市で紙おむつのリサイクルについて調査研究を始めると言っている。小田原市は遠いにしても、神奈川県内近隣自治体で興味を持っている自治体はたくさんあると思うので、そういったところと意見交換をし

て情報収集と実現の方向に持って行っていただければよいのではない  
か。

**(事務局)** 10月からのミックスペーパーのリサイクル方法だが、雑誌、雑紙等  
については、今までと同じようにトイレットペーパー等に資源化をする  
が、例えばシュレッダーごみ、感熱紙、写真などの新しい品目について  
は、今まで処理していた業者ではできなかったが最近民間の技術が上がり  
リサイクルができる事業者が最近いくつかあるので、そういうところ  
を入札で選定をする。今までできなかった品目をリサイクルするという  
取り組みになる。

**(大河内委員)** それでは、まだ業者が決まってはなく、模索しながらということか。

**(事務局)** お見込みのとおりである。様々な調査をして、資源化できる事業者が  
あることを確認をしてから方針を決めたので、4月以降に入札やプロポ  
ーザルなどで業者選定をしていくことになる。

**(大河内委員)** 紙から紙に戻すとなるとかなり業者の範囲が狭まってくると思うが、  
近隣に業者があるかどうかだが、反対にRPF（主に産業系廃棄物のう  
ち、マテリアルリサイクルが困難な古紙及び廃プラスチック類を主原料  
とした高品位の固形燃料)化などができるような手段を取るのであれば、  
ミックスペーパーに限らずもう少し発燃性能の高いものを一緒にまとめ  
られるので、もしかしたら回収物の販路を広げることができるという印  
象を持った。

**(事務局)** もう1点ご質問いただいた資源化できないごみ袋、レジ袋の話だが、  
今回プラスチック類に注目した関係で、本市の調査については細かいデ  
ータがあり、その中から情報を記載させていただいた。他の自治体に関  
しては、そこまでのデータが手元にないので分析はできなかった。また、  
このページの中でごみの有料化を実施しているのは京都市だけで、プラ  
スチック類が少ない数字が出ているが、横浜市も近い数字が出ているの  
で、プラスチック類のところに影響があるのではないかという捉え方を  
した比較資料である。

**(大木会長)** 紙おむつの排出量がこれから増えていくという予測がある中で、非常  
に難しい課題だと思いながら意見を伺っていた。

**(宮津委員)** 具体的な話が進んでいるが、まず伺いたいことがある。第3次相模原  
市一般廃棄物処理基本計画で改定されたことに繋がるが、ごみ総排出量  
が令和6年度で計画目標20万トンを切っている。そうなると、残りの  
7年度、8年度、9年度については、どのような方向で何をもって減量  
を進めていくのか。そこから何をするのかということに結び付くと思う

が、現時点でごみの総量が減少して目標を達成しているのです、今までの指針を進めていけば何も問題ないのではないかと考えてしまう。様々な努力によって20万トンを達成した喜ばしいことがある中で、今後事務局としてどのようなことを考えていくのか伺いたい。

**(事務局)** 第3次の計画で掲げたごみの総量の目標に対して、市民の皆様のご尽力とご協力によってごみの量は減っているという結果が出ていて、非常に喜ばしいことだと思っている。そのような中で今回諮問をさせていただいた最終処分場の課題の話が、現実のものとして目の前に迫っている状況がある。したがって、第3次の計画で取り組んできたことはもちろん引き続き進めることになり、さらにどのように取り組みを加速させていくのかを今後作成する基本方針に取り入れていく。第3次よりも次の第4次の計画の方が取り組みを充実したものにしていきたいと考えており、そのような視点から審議会の皆様のご意見等をお聞かせいただきたい。

**(宮津委員)** 事業、施策を展開する上で、目標が気の緩みではないが令和7年度もおそらく達成するだろう、令和8年度も9年度もよい数字が出るだろう、それをもって第4次基本計画に進んでいくが、今後4Rの推進をさらに進めていくという理解をしたが、それでよいか。

**(事務局)** お見込みのとおりである。

**(宮津委員)** 承知した。気を抜いてはいけないという話だが、達成をしたというのは過年度の話であって、では次年度がどうなるかということもある。今ここで審議がされていることは非常に重要であると考えているので、改めて確認をさせていただいた。

**(大木会長)** 事務局からの説明にあったように、最終処分場に埋め立てられる残り年数が少なくなっていることは大きいことだと思う。新たな最終処分場の選定をするといっても候補地も含めて大変なことなので、そういう意味でも私たち市民ができる努力としてそれぞれの家庭から出すごみの量を減らしていく、なおかつ少しでも資源化したごみを売却をしていく、その両方の取り組みに協力をしていくことが必要なのだと思う。私も自治会活動の中で日々ごみの問題と向き合っているのです、どうやったら減るのかということが最も大きな課題だと考えている。今年10月から分別の種類を増やすという計画が進んでいるが、何のためにやるのかということはどう市民に理解していただくのか、そこが重要だと思っている。そういう意味で、減らす目標の中で最終処分場のことを考える必要があると思う。

(畑野委員) 収集品目の変更は10月からでないと始められないのか。もっと早く始めることはできないのか。

(事務局) 収集体制や集めたものを処理する中間処理場の準備が必要なので、10月から開始ということになる。

(畑野委員) 承知した。

(山田委員) 資料1の中で10月から市民全体に実践していただく周知の方法というのがあったが、アンケートの中で分別はしているという意識の方が多いが実際はできていないことがある。意識としては実施していると思っている方が一定数いるので、しっかり分別方法を周知できるここがチャンスだと思う。10月からどのような方策を行っていくのが大切で、例えばLINEなどでこの地域の土曜日はこの品目の回収ですと伝えるとか、また、かつて日野市に住んでいた時の事例だが、日野市は分別が昔から細かく最初は分かりにくかったが、各地域ごとに今日は何の日という細かく書かれた1か月のカレンダーが配られていた。そのような取組も高齢者も分かり易いのでよいと思った。そういう具体的なものを出して行って、しばらくそれを続けていると、市民の方たちも段々と分かってくるので、さらに分別が進めていけると感じた。

(事務局) 周知については非常に大事であり、4月以降に10月から変わるという内容を書いたチラシを作り、各戸にポスティングする形でお知らせをしようと考えている。それから、広報さがみはらやホームページでお知らせをする。また、22の各自治会連合会の区域でも説明会を開催し、直接ご説明をさせていただく。それ以外には、分かり易い動画を作成して、Youtubeで若い方にも見ていただくことを現在考えている。

この機会を大事にしたいとっていて、今までの分別の仕方を知らない方も非常に多くいらっしゃるので、新しく変わるだけでなく、基本的な出し方やルールをこの機会に改めて周知していきたいと考えている。

もう一点、今、資源の他に普通に燃やすものは一般ごみという名称だが、名称を変更することを検討している。ごみは最初から一般ごみに出してよいということではなくて、まずは一生懸命資源を分けて、最後に残ったものを燃やすしかないというイメージをつけて、冊子を作り直して各世帯に配りたいと考えている。

(大木会長) 先ほど出た剪定枝の資源化のところで、自治会の公園アダプトで、枝だけではなくて雑草も多く出すようなことがあるが、分量的には結構大きいので、その辺りについての対策は今回入ってこないのか。

(事務局) 雑草についての対策は今回入っているわけではない。剪定枝についてこれまでご要望やご意見いただいている中で、我々も剪定枝の資源化について検討をしているが、公共施設で出るものについてはその事業者で設定したものを運搬して、津久井地域にある中間施設に一度置いて、横須賀の方まで持って行って処理をしていただくというような流れで行っているが、どうしてもご家庭から出るものには量や時期のばらつきがあるので、それらを1箇所ずつ集めていくと運搬にかなりの費用がかかってしまう。市内に処理できる事業者が出てくると運搬の費用も安くなり身近でできるので、そういった情報収集などを進めているところである。

(中島委員) 剪定枝については、ごみ集積所に資源として出してもらい回収するという方法だけではなく、どこか拠点を設けていただいて、そこに市民が持ち込むという方法もぜひ考えてほしい。今までは清掃工場に直接持ち込む人も多かったが、それが有料になってしまったので持ち込めなくなり、今はほとんどが集積所に出されている。資源として無料で回収してくれる場所ができれば、多くの人が持っていくと思う。

(事務局) 我々もそういった部分も必要だと承知しており、まずはそういった場所や利用方法についての1つのアイデアとして考えていきたい。

(内山委員) 最初の方に話が出たマイバッグ、エコバックだが、これについてはリフューズの観点から普及させたほうがよいということで、どこの企業も結構な勢いで何らかの形でお渡しをするということをやった結果、皆が持つようになったと認識をしている。しかし、それと同時にマイ箸やマイスプーン、マイボトルと言われたが、どうしてもマイ箸、マイスプーンはなかなか小さくならず、その後女性の方がバッグに入れられるように少し小さくなったものも出てきたが、普及しなかったと思う。市の方でコロナ禍で申し込みをすれば宅配ボックスを出したように全部市でやってくださいという意味ではなく、そのようなことも普及させていく観点として必要なのかと思う。お箸はないと食べられないので、そのようなところもよいと考えた。

また、相模原市のごみに関する分別の仕方の資料は見づらい。他の市でやられているように、資源化するところを前に持っていくことが必要なのかと思う。一般ごみが一番上にあると、皆、下の方はあまり見ない。自治会で「何で分別できないのか」という問いかけをすると、「一般ごみで出してもいいんでしょう」という意見が結構あり、資源化できるものを前に持ってくればという意見もあった。そういったところも、切り替えるよい機会である。

また、市の方でも年齢層が幅広い職員がいると思うので、若い世代や中間層の人たちの意見を吸い上げていってはどうか。今の若い人たちの感性は違うと思う。私たちの取組として、若い職員だけで構成して、部長とか課長を通さずに役員に直接進言ができるというプロジェクトを行っているが、結構よい意見が出る。当然取り入れられないこともあるが、これだけのことを行うのだとしたら、少し違う観点で意見を聞くということも大事ではないか。当然この審議会でも意見を聞いていくことも大事ではあるが、いざやるとなると市で実施していくので、長いスパンで考えると継続してやっていく職員でなければできないということもある。そのような観点に変えていく必要があるのではないかと皆さんのご意見をお伺いをして思った。

製品プラスチック回収がこれから始まるが、実際、中にプラスチック以外の部分があるわけで、全部解体して出してくださいという形に多分ならないと思う中でおもちゃなどをそのまま出すとなると、中で使われているものは本当に大丈夫なのかと思った。それは行政としても対策されるので大丈夫だと思うが、とても大きな改革をこれから相模原市は実施しようとしている。そのために、皆さんの意見を聞かれた上で総括して、年代を問わず聞きながらやっていくこと。先ほど若い人は認識はあるけど取り組んでいないという意見があったが、必ずしもそうだとは思わない。私も若い生徒たちとお話する機会があったりすると、私たちよりも活発に行動しようとしているので、必ずしもそこだけを捉えるのではなくて、全体的な数値を見ながら行っていけるような方策を考えることが大事ではないかと思った。

**(大木会長)** 質問であるが、ごみの収集の分け方で「一般ごみ」という言い方をしているが、時折「家庭ごみ」という言い方もあり、一般ごみは何でも入れられるという感覚がある。先ほど一般ごみの名称を変えようと仰っていたが、今回の大きな改革の中で各地域に周知にされる際に、分かり易い表現や一般ごみと言ったら何でもよいとならないことも含めて、そういった要素も加えていただくのがよいと思う。

**(事務局)** 今仰られた通りで、「一般ごみ」の名称を変えて、集積所の看板を始めパンフレット等の掲載順も一般ごみと資源の順番を検討し、まず最初に資源というイメージに変えてやっていきたいと考えている。また、若い世代の意見ということだが、庁内や課内にも若い職員がいて、最近ではPRに使う新しいキャラクターなどの発案が出てきている。ご意見を参考に、色々な人から意見を聞いて若者が興味を持つようにしていきたい。

(伊藤委員) 制度が変わってそれに対して周知を色々と考えていて全市民対象とあるが、全住民ではないか。例えば外国人はかなり多く住んでいる。今、自治会でもごみの集積場所に関して外国人にはなかなかルールが伝わらない。色々な言語のパンフレットはあるが、それだけでは分かりにくいので、各集積場所は大変な目に合っていると聞いている。全住民となると、税金を払っていなくとも一時的な市民となる。学生や従業員の方など、そういう方々も住民でごみを発生させるので、そこに対して周知するという発想の転換をぜひお願いしたい。

市民に対しては、回覧などの従来型の周知方法でもよいが、私が先ほどお話ししたような方々にも、この新しい制度を分かり易く伝えるということ、多言語での表現も考えているとは思いますが、お金かけてやるので色々なアイデアが出るが、実行力のある周知方法で、どこに伝えなくてはいけないのか、ごみを発生させる人達はどのような捉え方をするのかというのを再度確認していただきたい。

(環境部長) 我々行政は、習慣的に全市民という言葉を使ってしまう。しかし、確かにごみの問題は、市民がどうかというより全住民ということに気付かされたので、その意識でやっていきたい。また、我々もメッセージを出すので、メッセージの受け手がどのようにキャッチをしてくれるのかということを念頭に置いて、分かり易い発信をしていきたい。

(原委員) テーマのさらなる4Rの推進ということで、4Rという言葉自体を日本語に変えたほうがよいのではないか。4Rに固執してこれを知っているかどうかより、先ほども意見であったように必要ないものは買わない、買い物時に割り箸をもらわないなど、実際に焼却炉に入っていくごみをどう減らすのかというところに着目して、例えば宅配の段ボールは資源として分別して出せばよく、コンビニでスプーンをもらっても、これからそのスプーンは製品プラで資源で出せばよいので、ごみは減ると思う。4Rの推進というよりは、具体的にごみを減らすということを言った方が分かり易い。また、4Rと言わないで、工夫して分かり易く簡単に表現できたらよいと思う。

(大木会長) 資源化を細かく種類別に増やしていく方向性で、中間処理施設業者の手間がどのぐらい増えるのか気になるが、原委員からご意見はあるか。

(原委員) 先ほど意見にもあったが、例えばおもちゃにネジが入っていたらどうするのかということで、やはりX線などを通してそういうものが入っていたらブザーが鳴ってそこをよく見るような形に変えていくことになる。

まずお願いしたいのはペットボトルのキャップを外してもらうことであり、ペットボトルだけを集めた時にキャップがついていると塵芥車で詰め込んだ時に潰れないので、1台の積載量や何か所ごみ置き場を回れるのかということも変わってしまう。取らなくてはいけないものをしっかり取ってもらえれば、回収するのも少ない台数で済む。機械でできることもあるが、どうしても手作業で確認しなければいけない作業があるので、プラスチックだけでできているものをそのように出していただければと思う。もっと分別できるという方はバラしていただいてということになればよいと思うが、いまだにびんや缶を分けずに一緒に出す人もいる。

**(大木会長)** 先ほども大学など学生に周知をする方向を考えた方がよいというご意見も出ていたと思うが、ペットボトルなどは若い人が使うことが多いと思う。キャップとラベルを外すということを、ぜひ大学やそれから相模原市も留学生がたくさん来ていると思うので、日本語学校、専門学校のような外国人の対応をしているところに具体的な方法を伝えてもらえると、随分効果があるのではないかと思う。

**(荒木委員)** 10月から収集品目に変更されることだが、今、委員から話があったペットボトルについて、あるコンビニのペットボトルの回収機械を見ると「蓋を取ってください」というのは書いてある。しかし、「なぜ蓋を取って捨てる必要があるのか」ということは何も書いていない。心優しい人は書いてあれば蓋を取って入れるということをするかもしれないが、大木会長も仰ったように、大学生など若い人にそういうことを徹底するためには、なぜそれをしないとイケないのかということをきちっと明示することが非常に大事だと思う。

また、販売する側にその提示を義務づけていただくということを行政としてお願いできればと思う。例えば買い物する際に、箸や調味料、手拭きは基本的に取り放題である。ということは、本人の意識に任せるということしか行政はしていない。そこに一言「箸の無駄遣いはやめましょう」、「ご自宅で召し上がるのなら、ご自分のものを使いましょう」ということを1つ付記するだけで、ごみの発生量が減るのではないか。指導をすることは大変なので、例えばコンビニの見えるところに「割り箸は必ずお1人1つにしてください」とポスターを掲示していただくだけでも本当に必要な人だけが取るようになる、そういう細かいところが重要なのではないかと思う。

最後に、相模原市の人口構成を見ても、マンションの居住者が過去か

ら比べると増えている。マンションのよいところは、組合という組織が組合員に対して強制力を持っていることである。そこを利用しない手はないと思う。私が横の連携が取れていないと感じるのは、いわゆる市の建設部局の方は法律が変わったことに対して管理組合の代表者に声を掛けて、私の知っている限りでは4回ぐらいセミナーを開催して、組合を通じて徹底していこうという意図がはっきり伝わってくる。それと同じことを環境部局の方もしてもよいと思う。理事会宛に資料を送り、こういうことを提示してくださいということが伝われば、それが守られないとそのマンションの廃棄物処理のやり方が徹底されない、そういう形を考えてもよいのではないかと申し上げた。

(近江委員) 皆さんからお話を伺った中で、店舗運営側からの立場で少し意見をさせていただきたい。まず割り箸という話があったが、私たちも割り箸を提供しないことや数を制限する、ご希望の数にすることを試してきたが、やはり皆さんにお任せするしかないというのが実情である。

また、私たちは多地域展開をしているので、例えば私たちのスーパーでこうするというより、例えば相模原市から啓発ポスターを出していただきそれをレジの近くに置くなど、行政と地域で連携して行える対策であればやり易いと思う。

次に、外国人の方という話があったが、私たちのスーパーはかなり外国人の従業員が多く、十数か国の方々が働いている。ごみの出し方が分からない方が結構多かったが、外国人の方には見える化が最も分かり易い。ペットボトルの中を洗う、ラベルを剥がす、キャップをここに入れる、このごみはここでというのを見える化することで、最初は戸惑っていてもやっていただける。そういう外国人の方とか分からない方に対しては、なるべく写真で見せるなど出し方の手順をもう少し分かり易くしていただければと思う。私たちのお店の方でも、お客様に出していただく分別のボックスを作って、皆さんにしっかり分別していただき、洗って出していただいている。リサイクル方法が分からないというより、どこに出せばよいのか、どのようにすればよいのかが分かれば、やってくれる方が非常に多いのではないかと思う。

私も相模原市民としてごみ集積場所へのごみの出され方を見ると、ペットボトルにしても何でも分別があまりしっかりされていないというのが実情かと思うので、できれば行政にもごみの出し方の手順であるとか、私たちのスーパーと同じように、どこへ持って行ってこれを出せばどうなるのかというのを示してほしい。よくお客様に「ここで出したごみが

どうなるのですか」という聞かれ方をする。例えばペットボトルだったら燃料になるとか、ペットボトルキャップであればリサイクルされてうちわとかそういうものに使っているなど、他のものについても具体的にどういうものにリサイクルされているのかというのを結構聞かれたりする。ぜひ行政も出してくださいということだけではなく、その後どのように有効活用されるのかというビジョンを出していくと、協力していただける市民の方はいらっしゃると思った。

**(三膳委員)** 資料を見て、色々なことを色々なところで行っていると感じている。例えば、すぐ隣の東京都ではごみをエコセメント化している方法の事例がある。そのようなことをぜひ相模原市でも取り入れて欲しいが、エコセメント化をするのに10倍近くお金が掛かるということが資料に書かれている。そういうお金も今後必要だと考えなければならないのではないか。ごみの有料化という議題もこれから出てくるが、今もお店に行ってレジ袋を買うことをしているので、先ほどの事例のようなところにお金を回せるような仕組みができるとよい。例えば、市内で買い物をする時には、こういうことに利用されますと書かれているごみ袋を使えば周知に繋がるのではないか。そのように両方得になるように考えていけば、面白い発想が出てくると思う。

**(大木会長)** さらなる4Rの推進ということで、4Rに捉われなくごみの減量についてたくさんの意見が出た。ご意見の中で2番の啓発についての意見が既に出ているので、1番と2番をまとめて議論したと捉えているがいか

**(事務局)** テーマ2の啓発について用意した資料があるので、その説明をさせていただき新たなご意見や足りないところがあれば伺いたい。また、効果的な啓発というのは非常に重要な取り組みだと考えているので、次回の議題に入れることも可能である。必要に応じて、その点についても提案とさせていただきたい。

**(大木会長)** 承知した。

(2) ごみ減量に係るより効果的な啓発について

資料1を元に事務局より説明を行った後、ごみ減量に係るより効果的な啓発について、新しく取組むべきこと、強化するべきこと、変えていくべきことについて議論を実施した。

<質疑事項>

**(大木会長)** デジタルサイネージにごみ分別方法等を載せることは、検討をしてい

るのか。

(事務局) 今現在、市内の公共施設にあるものについては、既に掲載をしている。

(大木会長) 相模大野の伊勢丹の跡地にタワーマンションが建ち、間もなく入居開始となりグリーンホールと繋がる大きな広場ができたが、そこに大きなデジタルサイネージがある。入居者も含めてそこを通る人は非常に多いので、10月収集品目変更に向けて活用することの検討をお願いしたい。

(宮津委員) 少し対策を考えていただきたいことであるが、道路上を使っている集積場所が地区内に34カ所ある。その状況は既に視察していただいているが、分別ができていない。誰がよい悪いということではなく、資源化ができる可能性があるので早急に解決してほしい。今後、道路上の集積場所については無くしていこうという話が過去にあったが、進捗しているのかを確認したい。そこがごみ減量を推進する上で重要と考えている。

(事務局) なかなか置き場所がなく、道路上の端の方にネットをつけて置いているだけという集積場所はかなりあると認識している。かつては箱のような形で置いているところがあり、通行に支障がある場合は一時撤去等をお願いしてきた経過もあった。全体のごみの量は減ってはいるが、今はネットになりやはり集積した時にごみが溢れてしまう地域もあり、そこを分割してまた新しいところを探すという形で逆に集積場所が増えてしまう状況もある。次回の戸別収集の議題に繋がっていく内容でもあるが、今は、無くしていくことではなく、どうしたら新しいところを確保し、維持できるかを検討課題としている。

(宮津委員) そういう要因から分別以前に非常に悲惨な状況となっている。これを課題として長年審議会に出席しているが一向に進まないで、住民の方がより快適な生活ができるように、長い目で見ないでこの3年の内に方向性を出していただきたい。

また、道路にごみが溢れていたり、他の市の通り道になっていて明らかにポイ捨てがある地域がある。他の市とは現在有料化を実施しているところであるが、普通の袋で捨てられている。その集積場所については、自治会ではなくそこを使う住民の責任において、話し合いの中で管理運営をしている。ところが、住民でなく捨て易いというのはまさしくその道路上の集積場所である。25%以上の集積場所は、道路上のところに捨てられているということで、現在第3次の基本計画も終わりに近づいて減量している実績も残しているで、その辺りもプラスをして議論していただけると有難い。

(大木会長) ごみ減量を始め、次回の議題となる家庭ごみ有料化や家庭ごみの戸別

収集に繋がるご意見をいただきました。

**(中島委員)** 今、ごみ集積所の話が出たが、私も自治会の役員をしているので状況はよく承知しており、市にも要望をしてきている。新しくごみ集積所を設置する場所を確保するのが難しい中で、非常に苦勞をしている。ごみ集積所の問題については、先ほど話があったように次回の戸別収集のところと絡みがあるので、そこで議論ができればと思う。

啓発の方で少し話をさせていただくと、先ほど「市の職員がごみ減量の意識を持って、全員が率先して指導していけるようにしたい」という話があったが、非常に良いことだと思う。少し実態をお話しすると、麻溝まちづくりセンターに異動してきた職員は、「それまで余り関わりがなく、ごみのことを全然知らなかった」と言い、「麻溝に来てごみ問題に関わらざるを得なくなり、真剣に考えるようになった」と皆さんが言っている。ぜひ市の職員にはごみ問題の現状を理解し、一緒に取り組んでもらえるような存在になっていただきたい。

また、各市の資料で色々な啓発の方法があり、それを参考にしてこれから取り組んでいくことになると思うが、市民の意識を上げるのは簡単なことではない。麻溝地区は最終処分場の問題もあり、アンケートを見ても他の地区よりは意識は高いが、それでも十分な数字ではない。色々な啓発をしても、自分事として考えてもらえるところまで意識を上げていくのは、非常に大変なことだと思っている。

最も効果的な啓発は有料化だと考えている。有料化の一番のメリットは、ごみを減らしたり、ごみと資源を分別する意識が高まることだとアンケート結果にも出ている。こうした点も踏まえて、啓発については考える必要があるので、次回また議論ができればと思う。

**(浅賀委員)** 次回に向けて出していきたい数値や資料がある。1つは資料1の4ページ「ごみ総排出量の推移」で、かなりごみの減量ができているという委員の意見もあったが、外国人の方も含めて色々な住民がいるので、ここに相模原市の人口推移を載せていただきたい。その中で、ごみの量の在り方を問題視していった方がよいと思う。

また、5ページに家庭ごみの内訳1人1日あたり467グラムという数字が出ているが、これを仮に指定した袋を使う有料化にした場合に、それは税金の負担に繋がるので、1人1日あたり或いは年間どのくらいの負担額になるのか、それによって市の税収がどれだけ出てくるのか、その数字を出してほしい。先ほどあった多摩地域の組合の事例では、経費はもちろん掛かっているが、すべてセメント化をして、最終処分場の

整備費よりはかなり低い経費で埋め立てゼロをされているような事例もある。長い将来に渡って、相模原市でも他の市町村と連携をして、セメント化を含めて埋め立てゼロに向けた方向で今からやっていかないといけないと思う。最終処分場の限りがあるという話だけではなく、市はSDGsを掲げているわけなので、そこに費用を使っていく、もし実施するとしたら費用はどのくらいなのかということ、もし有料化した場合の負担額、それがこの物価高の中で税負担になることをしっかり押さえながら、どのくらいの税収が見込まれ、それをどのようなことに使うのか、埋め立てゼロを目指して、多摩地域の事例のようにその方向に舵を切っていけるのかを次回資料として出していきたい。

(大木会長) 有料化と戸別収集の2つが次回の議論のテーマになるが、戸別収集と切り離した有料化の方向性と、戸別収集とセットの有料化の方向性があると思うので、その辺りの詳しい資料等をご用意いただくと議論がし易いと思う。

また、新聞で読んだことだが、川崎市で飲食店から割り箸を集めて板にして家具を作るという業者がある。そういったことも情報として押さえられるとよい。

### (3) 次回に審議する取組について

#### ①家庭ごみの有料化について

#### ②家庭ごみの戸別収集について

家庭ごみの有料化、家庭ごみの戸別収集について、参考資料Ⅱを元に事務局より事例提供を行った。次回の議題として、焼却灰等の資源化を含めて議論を実施する。

事務局より、次回の審議会を2026年3月に予定していることをお伝えした。

## 相模原市廃棄物減量等推進審議会委員出欠席名簿

(五十音順・敬称略)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	浅賀 きみ江	さがみはら消費者の会		出席
2	荒木 保	公募		出席
3	伊藤 信裕	相模原市廃棄物減量等代表推進員		出席
4	内山 雅之	相模原市農業協同組合		出席
5	近江 良一	相模原商工会議所		出席
6	大木 恵	相模原市自治会連合会	会 長	出席
7	大河内 由美子	麻布大学		出席
8	加賀谷 育子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		欠席
9	中島 勝平	さがみはら4R連絡会		出席
10	畑野 真吾	公募		出席
11	林田 裕之	神奈川県立学校長会議 相模原地区会議		出席
12	原 正弘	神奈川県県央地区廃棄物処理業協議会		出席
13	福田 豊	相模原市子ども会育成連絡協議会		欠席
14	藤倉 まなみ	桜美林大学	職務代理者	欠席
15	松澤 直	相模原地域連合		出席
16	宮津 敏信	公募		出席
17	三膳 節勝	相模原市老人クラブ連合会		出席
18	山口 諒	津久井地域不法投棄防止協議会		出席
19	山田 とし子	相模女子大学		出席